



Rotary 第2760地区
犬山ロータリークラブ

■会 長：田中進一郎
■幹 事：高橋 秀治
■会報委員長：近藤 俊也

事務所／〒484-0081 犬山市大字犬山字西畑 22-5
電 話／0568-61-5219 F A X／0568-61-5523
U RL／http://www.inuyama-rc.org/ e-mail／info@inuyama-rc.org
例会場／〒484-0082 犬山市大字犬山字北古券 107-1 名鉄犬山ホテル
電 話／0568-61-2211 毎週火曜日／12：30～13：30

第2684回 例 会 (H 2 9 . 2 . 2 1 火 晴 れ ！)

点 鐘 田中 進一郎会長
R . S それでこそロータリー 四つのテスト
ビジター ☆犬山祭保存会 会長 石田 芳弘 様
幹事報告 高橋 秀治幹事
1) 会報受信クラブ 可茂
2) 下記クラブは例会変更です

クラブ名	例会日 (曜)	場所 (変更理由)
瀬 戸 北	2月28日(火)	(定款6-1による休会)
名 古 屋 城 北	2月28日(火)	(夜間例会)
可 茂	3月1日(水) →3月2日(木)	(国際交流例会)
可 児	3月2日(木)	(創立42周年 記念例会)
名 古 屋 東	3月6日(月)	(夜間例会・講演会)

出席報告 (丹羽敬昇委員長)

出席率 75.93%

会員 58名 出席 41名 欠席 17名

欠席者 藤井友喜君 埴田惣一君 原正男君
加藤浩一君 河田敏和君 三浦和昌君
中村大輔君 大海敏道君 澤田禪君
鈴木一成君 谷定貴之君 塚原義成君
安田一生君

前例会の修正(2/14分)

藤井友喜君(2/13eCLUBONE)紀藤政司君(2/9 名古屋
大須 RC)三浦和昌君(2/13eCLUBONE)大海敏道君
(2/16 江南 RC)大澤渡君(2/16eCLUBONE)澤田禪君
(2/15 各務原 RC)祖父江寿男君(2/8 可茂 RC)塚原義成君
(2/15 各務原 RC)梅田佳和君(2/12 第35回犬山国際友
好ｼﾞﾈﾗｼﾞﾝ)

以上 77.78%を 94.44%に修正

前々例会の修正(2/7分)

福富孝弘君(2/16 江南 RC)加藤浩一君(2/14 第2回 R 財
団監査委員会)野村憲治君(2/16 江南 RC)

以上 93.88%を 100%に修正

祝 福 (福富孝弘委員長)

おめでとうございます!!

会員誕生日 安田 一生君/小川 保利君
在 籍 28年 宮本 照剛君
皆出席 19年 牧野 武彦君
皆出席 8年 小川 誠 君
皆出席 6年 松山 基邦君

御夫人誕生日

中村大輔君夫人

結婚記念日

伊藤 隆君夫人

ニコボックス (梅田佳和委員)

本日の投函金額 47,000円



会 長 挨拶 (田中進一郎会長)



皆さんこんにちは、お客様の紹介をさせていただきます。皆様もご存じのお客様です。学校法人至学館伊達コミュニケーション研究所 所長 石田芳弘様です。今日は後ほど、卓話もいただきます。ごゆっくり楽しんでいって下さい。

挨拶を申し上げます。私は今年数えて68歳になりまして、だんだん古希が近づいてまいりました。去年のお正月に石田芳弘さんから頂いた年賀状が、非常に心を打ったものですから、今日皆様の前でご紹介させていただきます。

古希を迎えた心境を作者不詳「悩める人々への銘」に託します。石田芳弘

大きな仕事を成し遂げるために 強さを求めたのに
謙虚を学ぶようにと弱さを授かった

偉大なことができるようにと 健康を求めたのに
より良いことをするようにと病気を賜った

幸せになろうとして 富を求めたのに 賢明である
ようにと貧困を授かった

世の人々の賞賛を得ようと 成功を求めたのに 得意にならないようにと失敗を授かった

人生を楽しむために あらゆるものを求めたのに
あらゆるものを慈しむために 人生を賜った

求めたものは一つとして与えられなかったが 願い
はすべて聞き届けられた

私は もっとも豊かに祝福された

もうすぐ古希を迎える私ですが、このように古希を
迎えられたらいいなと思います。

今日の会長挨拶は以上で終わります。

犬 山 祭

日本人を知るための鏡

石 田 芳 弘



今日は、田中進一郎会長に口を利いていただき、皆さんにお話しできること、大変うれしく、感謝したいと思います。

犬山祭は今年 367 回目になります。二日間の祭ですから、考えてみれば、二年間祭ばかりやってみたいな感じですね。大変なエネルギーですね。その犬山祭がユネスコの無形文化遺産、犬山祭という極めてローカルな文化がグローバルな価値観の中に入っていくということで、画期的な年です。

そんな話を進一郎さんと話をしていたら、一度話をしてほしいということで、今日は犬山祭のお話をさせていただきたいと思います。サブタイトルを「日本人を知るための鏡」といたしました、

結局、お祭というのは深く観察すると、歴史のレイヤーを通り抜けて、縄文の魂まで行きつくわけです。そこまで見ると、祭というものは実におもしろい。生きた化石みたいなところがあるんです。

過去、日本人がどういうマインドで生活していたか、日本人はどっから来たのか、どういうものかというのを、祭を観察することによって発見できるというのが、私のサブタイトルです。

「行粧絵巻」(丸山・尾関所有)というのがあり、当時の犬山祭はこういうものですとわかるものとし

て、犬山市の文化財にもなっています。その中でも、私が伝えたいことは、誠に不思議な現象ですが、日本の義務教育では日本の音楽は教えません。教える先生もいないんです。日本の大学の教育学部の音楽の先生は、みんな洋楽の先生です。ピアノやバイオリンは得意だけど笛や太鼓は一切知りません。ところが、日本中の祭をやっている人たちは、日本の楽器(太鼓・笛・鼓)を習っているんです。日本の音楽と西洋の音楽の決定的な違いは、日本の音楽は自然のものの擬音です。人口の音でないということです。ヨーロッパの音楽は理念で作られた人口の音です。

太鼓の音は雨が降る音や嵐の音、笛は風の音、こういうものが祭の中にあるわけです。日本の祭はこのお囃子が非常に大事なんです。

「祭」という漢字は象形文字です。魚を神様に手で捧げるという意味の象形文字です。

私が祭に大変関心を持ち始めたのは、本居宣長の「古事記伝」に、天皇に仕え奉る政事と神に仕え奉る祭事は同じと書かれておりました。これを読んだときに、私の中では、犬山祭とプロとしての政治の仕事は全く一緒になったわけです。私が祭を語ることは、自分の人生を語ることに近い気持ちですね。もう一つ、民主主義と祭、これも全くシンクロしてきています。祭は全く民主主義です。

「Each Others Hero」それぞれが大将です。私の中では、政治という仕事と祭という仕事は全くシンクロしてきました。ですから、それだけ犬山祭というものをシンクロした状態でやることができました。政治というものはシステムで動きますからどうしても牽引者、というか権力がついて回ります。ところが祭には権力がありませんから、政治よりもっとアナーキー、無政府主義みたいなもので、みんなが大将です。それが祭の面白さでして、アナーキーですがごちゃごちゃの中で何となくまとまっていく。

一つの例として、はだか祭がございます。私は好きで何回もやりましたが、本当に無秩序でむちゃくちゃですが何となくまとまっていく。アナーキーな状態なんですが、神男に触るという宗教行事の中で、何となくまとまっていく。これが誠に面白い世界だと私には思えましたので、祭に飲み込まれていったというか、カオスがコスモスになっていく、混沌状態が何となくまとまっていく。古事記伝を読むと最初が、そういうことです。神々が世の中を創る時、

カオス状態で全く無秩序が何となくコスモスに一つのまとまった世界になっていく。これが祭の世界と政治の世界とが、私の中でシンクロしてきまして、特に関心を持ったというわけです。

犬山祭は針綱神社の霊祭です。4月7、8日（今は土、日曜）にやっていますが、霊祭というのはその神社の誕生日と思ってもらっていいと思っています。江戸時代は、6月にやっていたと記録で読んだことがあります。3回ほど編成しています。針綱神社は正一位白山針綱神社大神宮と言っています、尾張野一円の産土神の一つです。針綱神社のエリアは行政区でいうと大体犬山町がエリアだと考えていいと思います。日本の祭は縄文の魂が根底にあると思います。これは梅原猛さんの説で、私の個人的な説ではありません。どの日本の祭も、ずうっと歴史のレイヤーをくぐりぬけていくと、最後に縄文の魂に至るとというのが梅原猛説です。縄文の御霊信仰です。犬山祭も御霊信仰です。氏神、産土神というのは土地の神様です。それと日本人には山岳信仰があります。行者というものは山をめぐるのが信仰なんです。針綱神社も明治時代までは白山大神宮と言っていました。それと八幡信仰、神社は大体7万5千あるそうです。因みにコンビニは5万軒、コンビニより神社は多いんですよ。その中の一番多いのが白山神社です。八幡神社というのは武家の南無八幡大菩薩というように、八幡という神道と菩薩という仏教とが習合、神仏習合した思想で、日本で一番たくさんある神社です。

名栗町にも八幡神社ありまして、一時針綱神社が御遷宮してました。針綱神社は御霊信仰が元ですけど、白山信仰、八幡信仰が習合した日本人の深いところの信仰心があるということですね。

針綱神社の御祭神は十柱みえます。中でも、尾張針名根連命は尾張野を拓いた筆頭の神様だと私は思っています、こういう古代史と神話の世界が一致してくるのが、お祭りの面白さです。神話の世界からスムーズに古代史に繋がっていく。古代史の世界からスムーズに神話に繋がっていく。そこを見ないと、祭のダイナミズムはわかりません。

この筆頭の尾張針名根連命のお墓は東之宮古墳です。こちらから見ると成田山の向こうです。なぜ成田山をあそこに持ってきたのかを聞いたことがあります。あそこは誠にパワースポットです。日本陣は

もともと山に対する信仰がありますから、縄文時代は亡くなると山に葬ったんです。山はご先祖のいる場所、先祖の眠る場所、誰でも故郷の守護神のような山を持っているんです。犬山城も城ができる前は城山と言っています、このあたりの守護神みたいな山です。

犬山橋もものすごいパワースポットですよ。大正14年に作られた日本でも最も古い橋ですし、あらゆる可能性を持った川が木曾川です。

この光景を頭に焼き付けておいてください。

次に妙感寺古墳、針綱神社が東之宮へ行くときに一服した妙感寺、ですからここにお旅所を置きます。

東之宮古墳、妙感寺古墳、そして青塚古墳、愛知県では大きさとして2番目ですが123m、妙感寺古墳は95m、東之宮古墳は72m、非常に重要な古墳ですからこのあたりの方は覚えといてください。

犬山は歴史の地層でいうと、中世に入って愛宕神社が原点です。戦国時代、室町の末期にここに木下城をつくって、城下町の南地区あたりが一つの歴史の層をつくっています。その後、木下城を故郷の守護神みたいな城山に犬山城をもっていき、針綱神社を東之宮へ移すわけです。そして、江戸時代にもう一度、東之宮から名栗の八幡神社へ移すんです。名栗とか専正寺などは城下町よりも一つ歴史の地層が古い時代です。針綱神社が今の場所に移ったのは、明治時代以降です。

次からくりのお話をします。日本中のほとんどの祭は順番をくじ引きで決めているのですが、犬山だけは江戸時代から順番が決まっているんです。まず枝町、江戸時代は魚屋町の一角でしたから、以前は二日間のお祭りで試楽は針綱神社まで出ず、町内を廻すだけでした。

七福神の神様はたくさん出てきますが、枝町は恵比寿様のからくりです。

次が魚屋町「真先」です。犬山の車山は名古屋に対抗して、家老の犬山でしたが、祭くらいは主人よりということで最も高い車山をつくったんです。

その中の一番最初に行く車山、江戸時代最も力のあった町内と言われていますが、この「乱杭渡り」、

私が一番好きなからくりでして、江戸時代名古屋のからくり師が作ったものです。以前、ホンダのASIMOのグループと交流したことがあり、ロボットは2足歩行が難しいので乱杭渡りを見て、ホンダもびっくりしておりました。どうしてあんなことができるのか、この乱杭渡りは本当に素晴らしいですよ。

三番目は下本町「應合子」、唐子というのは中国や朝鮮の人形です。その唐子が大車輪みたいなことをやるんです。下本町も当時、大変力のあった町内と言われていまして、証拠も何もありませんが、下本町と魚屋町とが、どっちが力があるか争って、魚屋町が当時の針綱神社の宮司に何かおくって、魚屋町が先になったとかいう話も聞いたことがあります。

次は中本町「西王母」、これも大変ストーリーがあります。西王母というのは女性の最高の神様で、とにかく長生きしたいということで、長寿になるとされる桃を取りにいくというストーリーです。

これも好きなからくりの一つです。

それから熊野町「住吉台」、住吉は日本の神様で、中国から白楽天がやってきて、術比べをするというからくりです。

新町「浦島」、古事記の物語です。本町は第一街と書かれていますから、家が一番というプライドがあったんでしょうね。

次は練屋町「国香蘭」、能楽で石橋（しゃっきょう）をからくりにしたものです。次に鍛冶屋町「寿老台」、七福神で一番長生きの神様寿老人のからくり、名栗町「縫英」、これもストーリーがあります。

歌舞伎の「菅原伝授手習鑑」という有名な題目をからくりにしたものです。寺内町「老松」、古事記の第一ページに出てくるイザナキノミコトとイザナミノミコトの国つくりの物語です。余坂はインドの神様の大黒様とべろだし人形、おめでたいからくりです。外町「梅梢戯」、梅の花に戯れる人形です。以前は桜より梅でした。余坂と外町は木戸口の外でしたので、城下外の町でしたから最後に持ってきたわけです。鶺鴒町と坂下大本町は練り物、鶺鴒町は港町で大事なポイントでした。坂下大本町は大本町にいた人たちが、坂を降りて武家屋敷をつくりました。典型的な城下町です。内田も港町で重要なポイントで「子供競子」といいます。車山行事と練り物が完

璧に継承しているのは犬山祭の特徴です。

もう一度復習しますと、日本の祭は神仏習合です。そして多神教、日本の神様は三分の一くらいであとは外国の神様、渡来神です。それをお祭の中に見なきゃダメです。そして縄文の魂、日本の文化の地層には必ず縄文の魂がある。縄文の魂とは、自然畏敬、先祖崇拝、禊と祓です。

「東三河花祭り」冬至にやるんですが、冬至というのは昼が長くなっていく、生命がよみがえる時です。湯たて神事と言って熱湯をかける。死者がよみがえるという祭りです。

「国府宮はだか祭」禊とお祓だけの祭ですよ。カオスがコスモスになっていくすごい祭です。まさに縄文を見る祭です。

「田県神社豊年祭」ここは犬山の犬山神社の出社みたいなものですから、これも縄文の思想の祭です。

「諏訪御柱」柱に御をつけるんですから、木が神様なんです。木に神様が降りてくるんですよ。

ユネスコの話ですが、20世紀は世界遺産は不動産にかかってきたんです。今度の湯系文化遺産、犬山祭を含む33の祭は、不動産ではなく、お祭を維持する心にかかってきたんです。完全に21世紀型です。だからユネスコの無形文化遺産に指定されたということは、世界の文明の中で最先端だということです。ユネスコは持続可能という価値観が一番うたっていますから。犬山祭を含む33の祭の原点は京都の祇園の御霊会です。これはお祓いです。古代時代、人が集まってきて一番心配なのは疫病です。それをお祓いしたのが原点です。犬山祭の場合は大火があり、それをお祓いしたのが犬山祭の始まりです。

最後に、車山を持っている町内は改修に3000万近くかかっているんですよ。これは国費、県費、市費と町内負担もあるんですよ。だから車山を持っている町内は大変なものです。

これからは、単なる北地区の城下町の祭ではなく、犬山全体の祭にしていきたいと思っています。

「祭が町を育て、町が祭をはぐくむ」これが私の結論です。